

“地域”から“ひきこもり長期高年齢化”を考える

総社市における 「ひきこもり支援」の取り組み

ワンタッチ



社会福祉法人
総社市社会福祉協議会
総社市ひきこもり支援センターワンタッチ

岡山県総社市の概要

人口	68,237人
世帯	26,631世帯
高齢化率	27.5%
高齢者世帯	3,626世帯
生活保護世帯	328世帯
ひとり親世帯	698世帯
手帳保持者	身体：2,336人 療育：458人 精神：296人
町内(自治)会	390団体
民生児童委員	162人
福祉委員	582人



～総社市第2次総合計画～
全国屈指の福祉文化先駆都市

ゆるキャラグランプリ
2016年全国第3位

歴史遺産の多い総社

備中国分寺



新生活交通
“雪舟くん”



宝福寺



鬼の城

地域の3つの壁

今、地域での問題・課題

認知症・孤立・虐待・貧困・ひきこもり

重度化

① 意識の壁

- ・誰にも迷惑をかけたくない。
- ・自分には関係ない。ふうが悪い。

多問題重複

深刻化

② 情報の壁

- ・様々な情報が必要な方に届いていない。
- ・情報を知らないということを知らない。



複雑化

③ 制度・サービスの壁

- ・サービスが足りない。内容が不十分。
- ・縦割り、申請主義。

潜在化

総社市社会福祉協議会の事業

(1) 住民主体の地域福祉事業

- (個を支える地域づくり事業)
- ① 地区社会福祉協議会事業
 - ② 福祉委員活動
 - ③ ふれあいサロン活動
 - ④ ボランティアセンター活動



(2) 課題のある方への総合相談支援事業



- (個を支える相談支援事業)
- ① 障がい者基幹相談支援センター
 - ② 障がい者千人雇用センター
 - ③ 権利擁護センター
 - ④ 生活困窮支援センター
 - ⑤ 60歳からの人生設計所

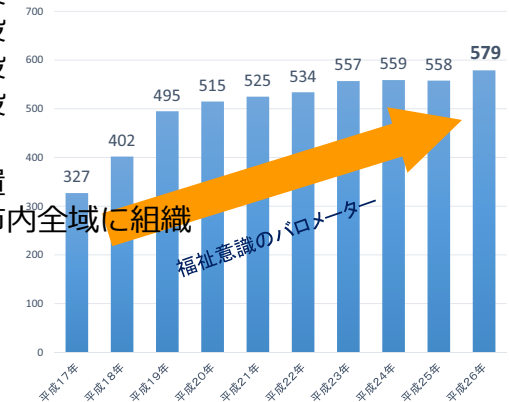
(3) 在宅福祉サービス事業

(在宅生活を支える支援事業)

5

福祉委員の活動

- 地域課題の早期発見、早期対応
- きめ細かい福祉活動の担い手
- ① 地域のアンテナ役
- ② 福祉活動の協力役
- ③ 福祉情報の連絡役
- ④ 福祉意識の啓発役
- 委嘱数 **575** 人
- 45世帯に1人配置
- 地区福祉委員会を市内全域に組織



6

横断的な総合相談支援体制の確立

障がい者千人雇用センター

H21/障がい者基幹相談支援センター

H24/障がい者千人雇用センター

H25/権利擁護センター“しえん”

H26/生活困窮支援センター

H28/そうじゃ60歳からの人生設計所

H29/ひきこもり支援センター

延相談件数
15,865件
(2016年度)

7

地域づくり活動と個別支援活動の融合

地域支援

- ・ 民生委員活動
- ・ 福祉委員活動
- ・ 地区社協活動
- ・ ふれあいサロン活動
- ・ ボランティアセンター
- ・ 小地域ケア会議

個別支援

- ・ 障がい者基幹相談支援センター
- ・ 障がい者千人雇用センター
- ・ 権利擁護センター
- ・ **生活困窮支援センター**
- ・ 60才からの人生設計所
- ・ 日常生活自立支援事業
- ・ 法人後見事業

「だれもが安心して豊かに暮らせるまちづくり」の実現

8

個別相談支援から見てきた事例

認知症の母（80代）と 30年以上ひきこもっている娘（50代）

- 母は、認知症状がみられ年金の管理ができない
- 第3者から搾取を受け経済的にも困窮している
- たびたび、社協の貸付を利用している
- 娘は、30年以上ひきこもり、誰も会ったことがない
- 生活環境は、劣悪になっている
- 熱中症で倒れ、救急搬送される



9

寄り添い支援（生活困窮者自立支援事業）



10

地域住民と一緒に考える



総社市におけるひきこもりの実態は？

総社市内にいったい何人？



今までは、家族や
個人の課題？



相談機関や地域から、十分な支援ができていなかった？

地域の方や関係機関の支援を受けて、地域で安心して暮らせないだろうか？

社会の一員として、活躍できないだろうか？

12

ひきこもり支援等検討委員会の設置 (H27.8月)

目的：総社市内のひきこもりの**実態把握**及び**支援方策**等を検討することを目的とする

⇒ ひきこもり支援は、**社会全体の課題**であることを確認

構成委員：市民生委員協議会、市福祉委員協議会、
市地域自立支援協議会、生活困窮支援センター協議会、
おかやま若者サポートステーション、**市保健福祉部**、
市教育委員会、市社会福祉協議会、備中保健所、
ハローワーク、学識経験者

事業実施：生活困窮者自立支援事業、
岡山県社会福祉協議会助成事業
(市町村社協活動活性化支援事業2015・16年度)



ひきこもりとは... (ひきこもりの定義)

【総社市におけるひきこもりの定義】

「義務教育修了後であって、
おおむね6か月間以上
社会から孤立している状態」

～例えば～

- ・ 仕事や学校に行っていない人
- ・ 家族以外の人と対面での交流がほとんどない人
- ・ コンビニでの買い物や自分の興味・関心のあることでの外出はあっても、普段は自宅にいる人
- ・ 日中、図書館や公園などで過ごすことはあっても、人と接することを避けている人



14

ひきこもり支援を考える研修会の開催

民生委員・児童委員 (161人) と福祉委員 (573人) を対象に2回開催

合計: **288名参加**



◇第1回研修会 (1月7日)

... **194名参加**

◇第2回研修会 (1月9日)

... **94名参加**

15

民生委員・福祉委員 ひきこもり支援を考える地区懇談会

市内**17全地区**で開催：最終的に**207人**の情報

【実数・実態 (状態像) の把握】

- ①個人の特定をしない
→ 個人情報に配慮した調査
→ 氏名や年齢等は記入しない
- ②本人の同意がある
→ 氏名や年齢、生年月日等記入
→ すでに支援を受けている方

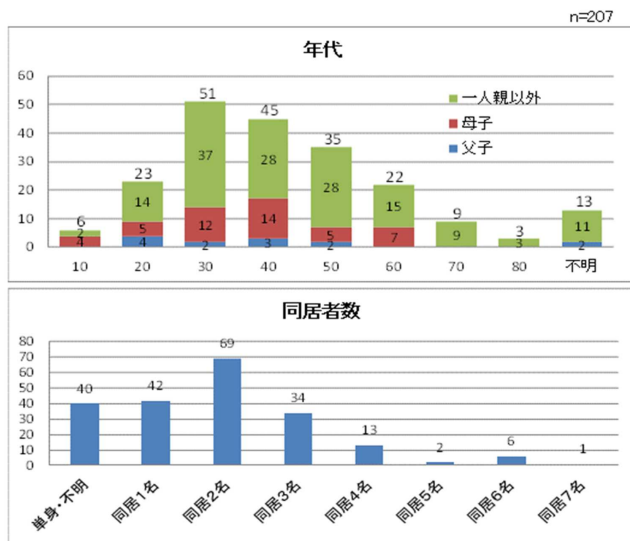


【ひきこもり支援の**懇談会**】

- ①ひきこもりの定義について共通認識を図る
- ②ひきこもりの方の具体事例を共有する
- ③情報提供カードを作成する
- ④市内全域**17地区**で開催予定

16

ひきこもり懇談会から見えてきた実態



懇談会であげられた
ケース

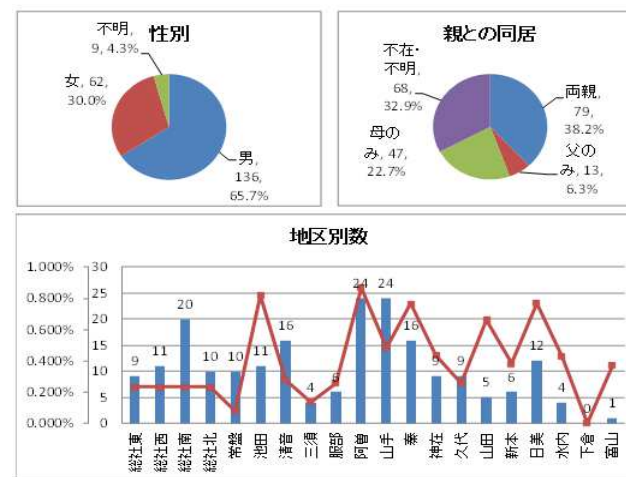
207人

・若い世代(30代～
40代)の方が多い。

・同居2人が最多。
・次に、同居1人。
・ひとり暮らしの方も

17

ひきこもり懇談会から見えてきた実態



・男性が6.5割、
女性は、3割。

・両親と同居が約4割。
・不明が、3割。

ひきこもりの理由
○ 不登校の経験・
傾向 (18)
○ 障がい (22)
○ 病気 (6)
○ いじめ (5)
○ 虐待 (1)

・地区によって、かな
りの差がある。

・かなり詳しく実態を
把握されている地域
がある。

・総社市内のひきこもり率、平均 0.30%

・総社市内のひきこもり率、地区別 0.08%~0.87%

18

今まで「ひきこもり」という課題は！ 最も難しい、閉塞した福祉課題のひとつ

ふたつの大きな壁

①本人・家族

- ・誰に相談していいのかわからない
- ・誰にも関わってほしくない
- ・どうしていいのかわからない

高齢化
長期化！



②地域住民・知人

- ・分かってはいるけど、話題にできない
- ・家族から触れてほしくないといわれる
- ・どう関わっていいのかわからない

19

ひきこもり支援を地域福祉の課題として！

①ひきこもりの定義

⇒地域福祉の観点から、年齢上限を設けない

②地域住民、関係機関、行政のネットワーク

・ひきこもり支援等検討委員会の設置

③民生委員児童委員、福祉委員の協力

《ひきこもり支援を考える懇談会への参加》

・ **民生委員児童委員** 128人／161人

・ **福祉委員** 243人／573人

20

ひきこもり支援について市民の理解を！

「社協だより」でひきこもりの連載特集（全戸に配布）

ひきこもり支援

民生委員・児童委員及び福祉委員
地区懇談会が全地区で開催されました！

ひきこもり支援の重要性が、民生委員・児童委員及び福祉委員の地区懇談会を通じて、全地区に広げられました。ひきこもりの現状や支援の必要性について、委員と住民が話し合い、理解を深めました。

ひきこもりの方...207人

民生委員・児童委員からの情報 11月10日現在

年代別人数（単位：人）

年代	人数
10代	1
20代	1
30代	23
40代	31
50代	28
60代	18
70代	10
80代	3
不明	13

30代の割合が31人（24.6%）

ひきこもり支援は社会全体の課題です

ひきこもりは、個人や家族の問題ではなく、「社会全体の課題」です。ひきこもりについて一緒に考えてみませんか？

■日時 平成29年2月4日（土）13:30～16:00

■会場 調整中

■講演 不登校・ひきこもりを考える
～ありのまに寄り添い、ともに歩む～

講師 調康院高校 法人事務局長 堂野 博之 さん

■シンポジウム ひきこもり支援に必要な取り組み、地域づくりテーマに本人、家族、支援者等によるシンポジウムを予定しています。

■申込先 社会福祉法人 総社市社会福祉協議会
TEL (0860) 92-8555 FAX (0860) 94-0009

21

ひきこもりの実態 → 総社市の施策へ！

市内には、ひきこもり状態の方が少なくとも207人

- ・幸福追求権（憲法第13条）の保障を前提として
- ・就労し、所得を得て、地域消費を支え、納税者に ⇒ 経済の活性化
- ・生きがいを見つけ、地域コミュニティの主役に ⇒ 地域の活性化

総社市の“重点課題”と捉え

社会へ一歩踏み出すための体制を整備

22

第2次 総社市総合計画 「全国屈指の福祉文化先駆都市」



平成28年3月策定

基本理念

- 困っている仲間を支えよう！
- 子どもと仲間を増やそう！
- 仲間と力を合わせよう！

基本計画

- だれもが住みたくなる総社
 - ・子育て
 - ・社会保障（高齢者・障がい者など）
 - ・住宅・生活基盤
 - ・移住・定住促進
 - ・防災・消防
- だれもが働きたくなる総社
 - ・雇用
 - ・農林業
 - ・商工業・物流
- だれもが学びたくなる総社
 - ・学校・幼児教育
 - ・家庭教育
 - ・スポーツ・文化・生涯学習
- だれもが訪れたい総社
 - ・観光
 - ・都市・社会基盤
 - ・自然・環境
- だれもが集いやすい総社
 - ・市民参加
 - ・広域連携
 - ・市役所

23

基本計画

- ・障がい者や、女性、高齢者、外国人などの働きたい希望をかなえる
- ・企業の理解や事業所内での雇用継続に向けたサポート体制の構築に向けた普及啓発
- 近隣自治体からの労働力の広域確保
- ハローワーク総社内に設置した「就労支援ルーム」による多様な就業機会の確保

様々な働き方を応援する

- 総社商工会議所や市内金融機関等と連携した「総社中小企業サポートセンター」により、女性や若者などの創業支援
- 社会変化に対応した雇用環境の整備や男女ともに働きやすい職場づくりの推進
- ・特に男性のワーク・ライフ・バランスの推進に向けた啓発

障がい者の自立を応援

- 障がい者千人雇用の深化
- ・障がい者千人雇用センターによる就労希望の障がい者と事業所のマッチング、新規就労先の開拓、職場定着のさらなる推進
- ・就労相談や就労前後のサポート体制の拡充
- ・企業において障がいについての理解を深め、自立に向けた支援体制作り

発達障がい者の自立を支援

- 障がい者千人雇用センターによる就労及び生活の支援
- 発達障がいの特性についての市民や企業の知識と理解の向上

「ひきこもり」の状況にある人の就労支援

- 「ひきこもり」の実態把握、相談支援の実施
- 交流や居場所づくりの場となる支援拠点の整備

若者の地元就職を推進



24

全国屈指の福祉先駆都市をめざす！

(第2次総社市総合計画 平成28年～平成37年)

【全国屈指福祉会議 ひきこもり支援部会】

①ひきこもり支援センターの設置

- ・ワンストップの相談窓口の設置（相談支援員の配置）
- ・インターネットやパンフレットで周知
- ・切れ目のない相談支援体制を整備

②ひきこもりサポーターの養成

- ・ひきこもり問題を理解し、支援活動を行うサポーターを養成
- ・ひきこもりから自立した者が支援者となるサポーターを養成

③居場所の設置

- ・相談支援もできる有効な居場所の設置
- ・社会へ踏み出す出発点となる環境を整備

25

総社市におけるひきこもり支援事業

④ ひきこもり予防

- ・不登校はひきこもりの原因の1つ
- ・長期欠席児童生徒へのアプローチ（支援員の配置）



⑤ 情報提供

- ・市民にひきこもり支援の理解を広げる「社協だより」の特集
- ・ひきこもりの方へ支援資源を広く伝える広報活動

⑥ 就労支援

- ・ボランティア体験、生活支援サービス、一般就労など多様な就労形態の創出
- ・市内社会福祉法人との連携による社会貢献活動（体験の受入）



26

総社市
ひきこもり ワンタッチ 支援センター

あなたのことを忘れていません
あなたと一緒に考えます

相談専用
☎ **92-8597**
E-mail: soudan@sojasyakyo.or.jp

ご本人へ
ひきこもりの方が多くが焦りや不安を抱えています。自分で答えが見つからないときは、まずご相談ください。一歩踏み出すあなたと一緒に考えます。

ご家族へ
誰かに話をすることで気持ちが楽になり、一緒に考えると、問題の整理ができます。ご家族だけでもご相談ください。

- 専門の相談員が、対応します
- 相談の内容についての秘密は守られます
- 相談は無料です

社会福祉法人 総社市社会福祉協議会
ひきこもり支援センター ワンタッチ

ひきこもり支援センター「ワンタッチ」の誕生！

○専門の相談員が対応！

- ・2人の専任相談員（社会福祉士・臨床心理士）
- ・電話、メール、訪問での相談
⇒50人の対応

○ひきこもりサポーターの養成

- ・理解ある市民が支援
⇒40人のサポーター

○居場所の創設

- ・気軽に立ち寄れる場所
⇒下半期に立ち上げ

市町村で設置は、
全国でも例のないセンター

27

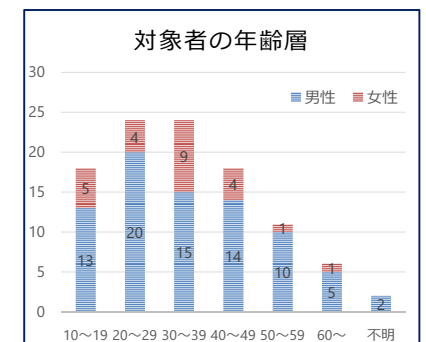
ひきこもり支援センターの相談支援状況 (H29.4~H30.2)

○実相談者数 **102人**（男78人：76.5%、女24人：23.2%）

- ・本人接触あり37件（対面30件、電話5件、手紙1件、メール1件）
- ・家族接触のみ39件
- ・民生委員から15件

○対象者の年齢層

10～19歳	18人	17.6%
20～29歳	24人	23.5%
30～39歳	24人	23.5%
40～49歳	18人	17.6%
50～59歳	11人	10.8%
60～	6人	5.9%
不明	2人	2.0%



28

ひきこもり支援センターの相談支援状況 (H29.4~H30.2)



延相談件数 1,515件

・訪問	438件	28.9%
・来所	457件	30.2%
・電話	579件	38.2%
・e-mail	41件	2.7%

社会参加数 10人

- ・ボランティア体験（3か所の特養へ4人）
- ・就労（1人）、短期就労（2人）
- ・地区社協行事への参加（1人）
- ・イベント型居場所（延べ13人）



29

ひきこもりサポーター養成講座

ひきこもりに対する理解、ひきこもりの方やその家族の支え手居場所づくり等のサポーターを養成することを目的に開催

全5回講座・毎年度40名目標・多様な参加者
(本人・家族・民生委員・福祉委員・ボランティア・大学生など)



【講師】
NPO法人代表、大学教授
(精神科医)、教育委員会、保健所、市、社協等の職員



「ひきこもりへの理解」「自分たちにできること」

30

ひきこもりサポーター定例ミーティング

定期的にサポーターで集まり、活動内容を話し合う



活動内容の話し合いをしたり...



レクリエーションに使えるような場を見学したり...



31

ひきこもりサポーターフォローアップ研修

平成29年度 福祉市民会館研修会 ひきこもり支援事業
第1回ひきこもりサポーター フォローアップ研修

フリースペースあかね見学研修

1. 日時
2017年6月28日(水)
10:00~12:00
2. 場所
岡山市北区西町3-11 みんなの会館2階
3. アグセス (裏道にあかねの南口駅を過ぎて左へ)
① 社協の車に乗り合わせる場合
当日の会・ひきこもり支援センター前に集合してください
② 車で直接現場へ行く場合
あかねの駐車場は台数が限られていますので、観音保蔵第2駐車場をご利用ください(あかねまで徒歩3分)
③ 電車で行く場合
JR 徳大駅 徒歩3分 徒歩8分
4. 研修内容
① フリースペースあかね見学
② 研修
講師：フリースペースあかね 中
③ はなだ家でカレールー作り(自由参加)
中山代表が講師する。「はなだ家カレールー」は500円~600円程度(4人分)

ランチ 12:00~13:00
お茶代 500円

平成29年度 福祉市民会館研修会 ひきこもり支援事業
第2回ひきこもりサポーター フォローアップ研修

第2回 ひきこもりサポーター フォローアップ研修

1. 日時
2017年7月11日(水)
10:00~12:00
2. 場所
福祉市民会館2階 技能習得室
3. 参加費
無料
4. 研修内容
① 発達障害のある方への関わり方(1時間程度)
講師：山田 新二 氏
福祉市民会館ひきこもり支援センター センター長
グループワーク(30分程度)
・発達障害
・事例検討 など
質疑応答(30分程度)
お茶代 500円

平成30年度 福祉市民会館研修会 ひきこもり支援事業
第3回ひきこもりサポーター フォローアップ研修

第3回 ひきこもりサポーター フォローアップ研修

「受け入れる、視点を変える、良いところを探す」

ランチ 12:00~13:00
お茶代 500円

32

ジャガイモ堀り



- ◆サポーターの1人がジャガイモ堀りをするので相談者の方を誘いませんか？と提案
- ➡相談者の1人が参加することに！
- ➡しかし、当日の朝「足がつって…」と連絡が…
- ➡代理で本人の父親が参加



たくさん収穫できました♪



33

体験・イベント活動



地区社協行事のお手伝い



人狼ゲーム大会？

34

生涯現役セミナー参加



シニア世代の
**「働きたい」
「活躍したい」**
を応援します
☎0866-92-8586

相談無料

プライバシー保護

【対象者】

まだまだ働きたい・社会や地域に
貢献したいとお考えで、
総社市にお住まいの55歳以上の方

社会福祉法人
総社市社会福祉協議会
そうじゃ60歳からの人生設計所
〒719-1131 総社市中央 1-1-3 総合福祉センター内



そうじゃ60歳からの人生設計所

35

ひきこもり支援センター開設フォーラム



総社市
**ひきこもり支援センター
開設記念フォーラム**
日時 平成29年 7月23日(日)
13:30~16:30
会場 総社市総合福祉センター
対象 一般市民・関係機関・団体等
参加費 無料

基調講演

『引きこもり』の理由、
社会的背景、そして苦悩…(仮)
～「引きこもり」するオトナたち～
講師：ジャーナリスト 池上 正樹 氏

分科会(ワークショップ)

「当事者からの発信」「支援者に求められるもの」「居場所を考える」「社会参加・就労を考える」(仮) など

社会福祉法人 総社市社会福祉協議会
ひきこもり支援センター



ジャーナリスト
池上 正樹 氏

36

「居場所」の設置に向けて

相談支援で関わっている事例からイメージした**模擬「居場所」**を当事者、専門職、サポーターを交えて企画実施

- 趣味活動
ゲーム、音楽、読書、芸術
- 体験活動
ジャガイモ堀り、卓球、収穫・調理、地域行事
- 行事・イベント
映画鑑賞、ハロウィン、クリスマス会、年賀状・絵手紙書き、書初め、初詣、男子会・女子会

2018年2月23日
「居場所」開設！！



37

「居場所」“ほっとタッチ”開設



38

ひきこもり家族会の設立に向けて

●家族会設立準備会

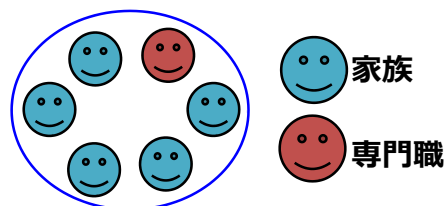
ひきこもり家族会の設立に先駆け、今後の研修会や情報交換会の内容等

●家族向け研修会

ひきこもり経験者やその家族の体験談、専門家による講義等を聞き、家族同士の意見交換等を通して、当事者への日々の関わり等、当事者理解を深める

●情報交換会

●家族会便りの発行



39

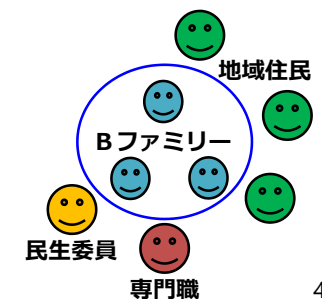
地域との協働支援事例①「ご近所力復活」

- 民生委員から「家族全員（3人）が、ひきこもりの状態で、近所付き合いがまったくない家があり、**庭木など伸びていて近所が困っているし、挨拶しても返事がない**」と話題になった。

- 地域包括支援センターと**繰り返し訪問**した。

- 民生委員から「疎遠になっていた親族が家族と会えるようになった」と連絡があった。

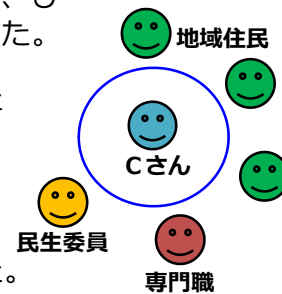
- 民生委員と**訪問を繰り返した**ことで、地域住民との**関係もでき**、庭木の剪定ができた。



40

地域との協働支援事例②「ゆるやかな見守り」

- 民生委員から「同居の**家族が亡くなり、一人暮らし**になったが、**近所付き合いがない**ため、**心配**している方がいる」と情報提供があった。
- 亡くなった家族に関わっていた市、地域包括支援センター、民生委員、社協、ひきこもり支援センターで**情報共有**した。
- 亡くなった家族に密に関わっていたケアマネジャーと一緒に訪問したところ、本人と会え、近況を聞くことができた。
- コミュニティー内での役割が担えた。



41

“第1回 全国ひきこもり支援基礎自治体サミット in そうじゃ（仮称）” 開催予定

全国で「ひきこもり」や「不登校」への支援を独自に行う基礎自治体や教育機関、社会福祉協議会等、住民に一番身近な支援機関が集い、**「ひきこもり」等への支援の現状と課題を明らかにするとともに、必要とされている取り組み等について、その在り方や具体的方策を明らかにしていく**ことを目的として開催する。

期 日：平成30年7月11日（午後の予定）

開催地：総社市

内 容：①ひきこもり支援全国ネットワーク（仮）設立宣言
②基調講演
③ワークショップ（実践報告など）
④ひきこもり支援の日（仮）制定 など…

42